

2013/12/13

柏の景気情報（平成25年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援二課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年11月分）

○ 調査期間 : 平成25年11月21日 ~ 11月27日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	87	55.8%
建設	44	24	54.5%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	43	33	76.7%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年11月の調査結果のポイント】

《消費税増税前の動向や天候の影響で業況は不透明》

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.9(前月水準▲12.7)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲6.6(同▲26.6)であり、マイナス幅が20.0ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、建設業△8.3(同△25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.4(同▲41.9)である。

【建設業】からは、「年内はリフォーム需要は根強いが、年明け1月2月は例年通り暖かくなるのを待っての工事となりそうだが消費税UPもあり、わからない状況です。」(一般土木建築工事業)、「消費税増税のかけ込み需要が表れてきたが、まだ多くない。」(電気工事業)、「例年と比べて施工件数が増えているようではないが、不況に依る低単価に廃業、転職に依る人材不足となり、取引の無いゼネコン会社からの仕事の依頼も多いが受注単価は相変わらず見直しはなく以前の単価のままである。」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「全般的には設備導入の意欲が昨年度より増しているが、4月以降の落ち込みが懸念される。」(その他の機械・同部品製造業)、「売上高微増、仕入高増を経費減にて吸収し利益前年を確保。」(酒類製造業)、「価値観の多様性によって、業態の在り方を見直さなければならない。しかも、原点からぶれずの多角化でないと今までの業績が活かせないと考える。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「序盤は好調に推移。ジャケット、コートなど10月苦戦の重衣料が堅調。ただし中盤以降は好天に恵まれるも動員苦戦。」(百貨店)、「歳暮商戦は、前年と同様で推移。」(百貨店)、「中旬以降気温が安定せず、冷え込みと寒気の緩みを繰り返したことから、中旬から後半に掛けて婦人服を中心に伸び悩んだ。」(その他の各種商品小売業)、「原材料の価格の高騰が続いているが、販売価格に転嫁しづらく思うような利益が取れなくなっている。」(各種食料品小売業)、「ここにきて卵の価格が上昇！年末に向けて更に上がるらしい。その他の原材料も価格が上昇し益々厳しくなると思われる。」(菓子・パン小売業)、「今月の青果物は、先月の台風上陸や急な冷え込みが原因して、入荷に影響しています。特に、葉物野菜は生育が悪く入荷減少から、高値が長引いています。果実においても同様に入荷が減少し高値取引となっています。」(食料・飲料卸売業)、「多少ガス器具の増販により前月より赤字幅が減少したがが厳しい。」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「11月は記念セールの実施等により、前年同等としたが、12月は日曜日より始まり、当店日曜休日の為曜日終わりが良くなく、苦戦しそうである。対策として宴会料理内容の一部見直し、少量高品質へ。」(酒場・ビヤホール)、「宿泊マーケットは良くWEB販売による客室単価の落ち込みはあるも稼働で上回り前年をクリア。」(ホテル)、「11月は個人・法人とも好調。個人は1月は国内、2月は海外が前年を大きくオーバー。法人は第4四半期の動きに期待。」(旅行業)、「仕入れ、リフォーム費が共に上がっている。売値は下がっている。よって採算は悪化しています。」(不動産管理業)、「駅周辺で月極駐車場をもっていますが、今時の若いご夫婦は自家用車を持たない方が多く、計画通り満車になりません。」(不動産賃貸業)、「弊社手持ち物件において住居系賃貸賃料は落ち着いている状態が続いています。」(不動産賃貸・管理業)、「各企業の設備投資企画が立ち上がらず、厳しさ大です。厳しい状況変わらず。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「相次ぐ台風の影響で、屋根・外壁工事が集中し職人不足が続いている。」(一般土木建築工事業)、「仕事はあるのかもしれないが、全体的な業者、職人不足の為スムーズに進んでいないのでは。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「例年と比べて施工件数が増えているようではないが、不況に依る低単価に廃業、転職に依る人材不足となり、取引の無いゼネコン会社からの仕事の依頼も多いが受注単価は相変わらず見直しはなく以前の単価のままである。」(その他の職別工事業)、「畳表の入荷も遅れているので、畳業界全体が回転しだしているのかもしれませんが。」(内装工事業)、「原材料の価格の高騰が続いているが、販売価格に転嫁しづらく思うような利益が取れなくなっている。また、ここにきて人手不足の傾向が強くなってきたような感じを受ける。」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税増税

各業種から、「消費税かけ込み傾向、受注は増加しているが人手不足のため現場進まず。」(管工事業)、「消費税増税のかけ込み需要が表れてきたが、まだ多くない。」(電気工事業)、「高額品については宝飾・時計・美術工芸品などが消費税増税決定影響により活発が継続。」(百貨店)、「消費税増税を口にするお客様が出て来ました。保存のきく日用雑貨類は価格が安い時にプラス1個多く買っていかれるようです。」(その他の各種商品小売業)、「増税の影響、客足に不安。」(その他の各種商品小売業)、「立地の需給関係にもよりますがテナントの売上げも落ち着いて、消費税率改定を前に賃料の値下げ要因は現在ありません。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎売上増加

各業種から、「売上は増加しているが材料の値上がりと予算額の低下で利益は少ない。」(電気工事業)、「一般のお客様からの注文の増加とリフォーム会社からの受注の増加もあり売上が増えました。」(内装工事業)、「初旬に実施したキャッシュバックキャンペーンが奏功し、売上高は前年を大きく上回る推移となった。」(その他の各種商品小売業)、「新型の軽自動車やワゴン車等の登場で代替や新規のお客様が来店され昨年より売上が上がっております。」(自動車小売)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲20.2	▲18.1	△11.7	▲44.1	▲6.2
7月	▲17.2	△3.8	▲23.5	▲41.6	△14.2
8月	▲21.5	△3.8	▲17.6	▲45.4	▲17.6
9月	▲22.5	△7.6	▲22.2	▲50.0	▲17.6
10月	▲12.7	△25.0	±0.0	▲41.9	▲26.6
11月	▲14.9	△8.3	△6.6	▲45.4	▲6.6
見通し	▲10.3	△8.3	±0.0	▲27.2	▲13.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.9(前月水準▲12.7)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。

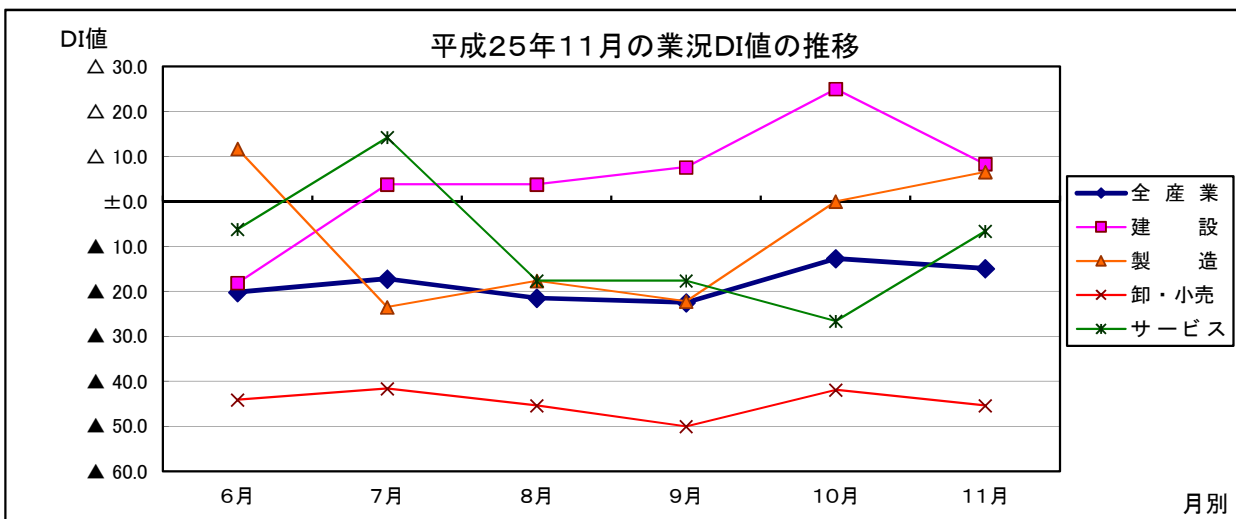
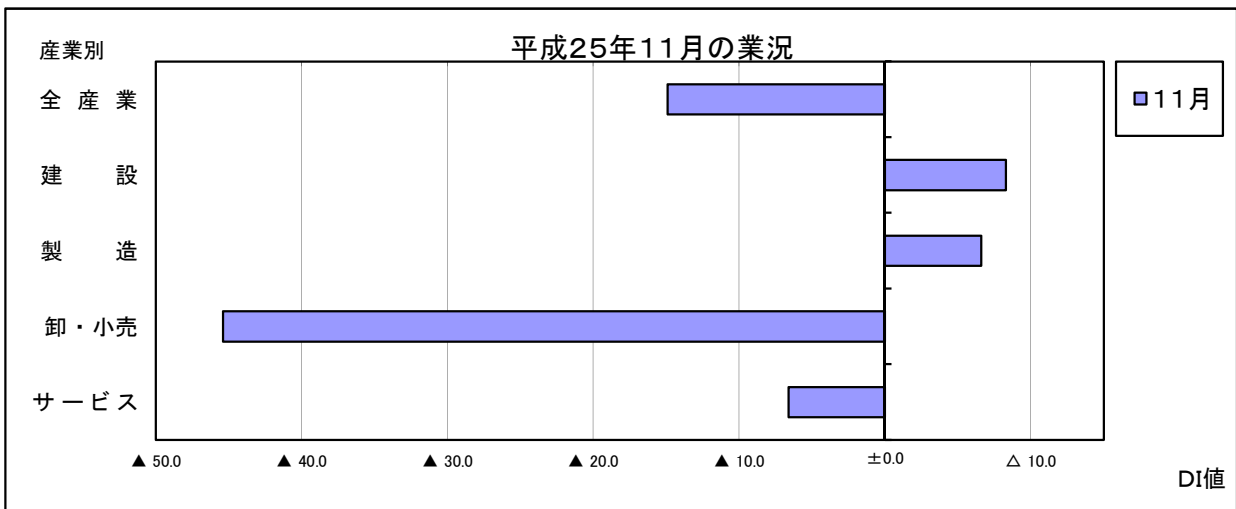
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲6.6(同▲26.6)であり、マイナス幅が20.0ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、建設業△8.3(同△25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.4(同▲41.9)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.3(前月水準▲3.4)となり、マイナス幅が6.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲27.2(同▲32.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△8.3(同△25.0)、製造業±0.0(同△12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

平成25年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲20.2	▲17.2	▲21.5	▲22.5	▲12.7	▲14.9	▲10.3(▲3.4)
建設	▲18.1	△3.8	△3.8	△7.6	△25.0	△8.3	△8.3(△25.0)
製造	△11.7	▲23.5	▲17.6	▲22.2	±0.0	△6.6	±0.0(△12.5)
卸・小売	▲44.1	▲41.6	▲45.4	▲50.0	▲41.9	▲45.4	▲27.2(▲32.2)
サービス	▲6.2	△14.2	▲17.6	▲17.6	▲26.6	▲6.6	▲13.3(▲6.6)



【平成25年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.0(前月水準▲5.8)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。

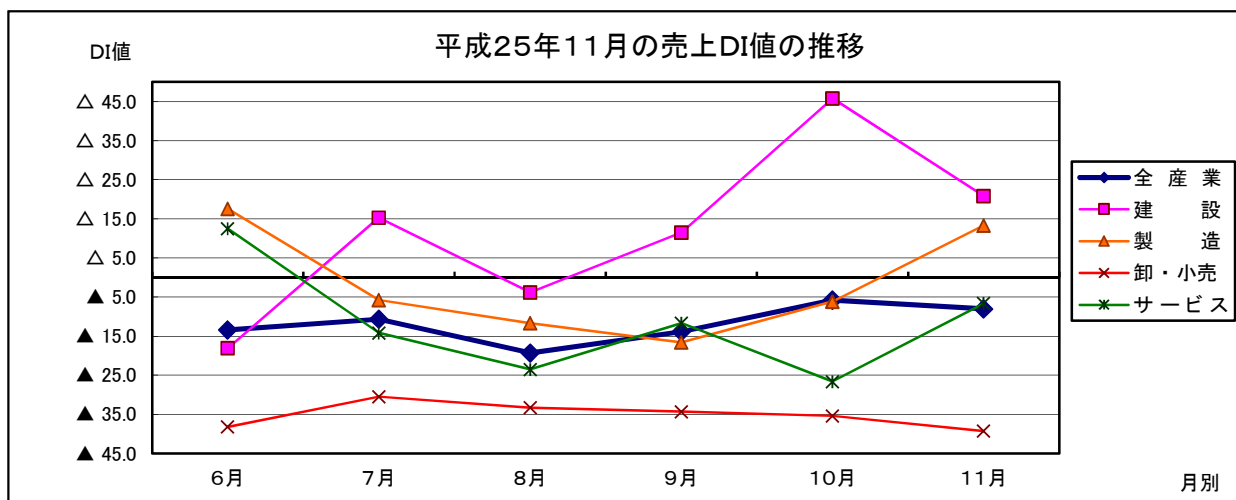
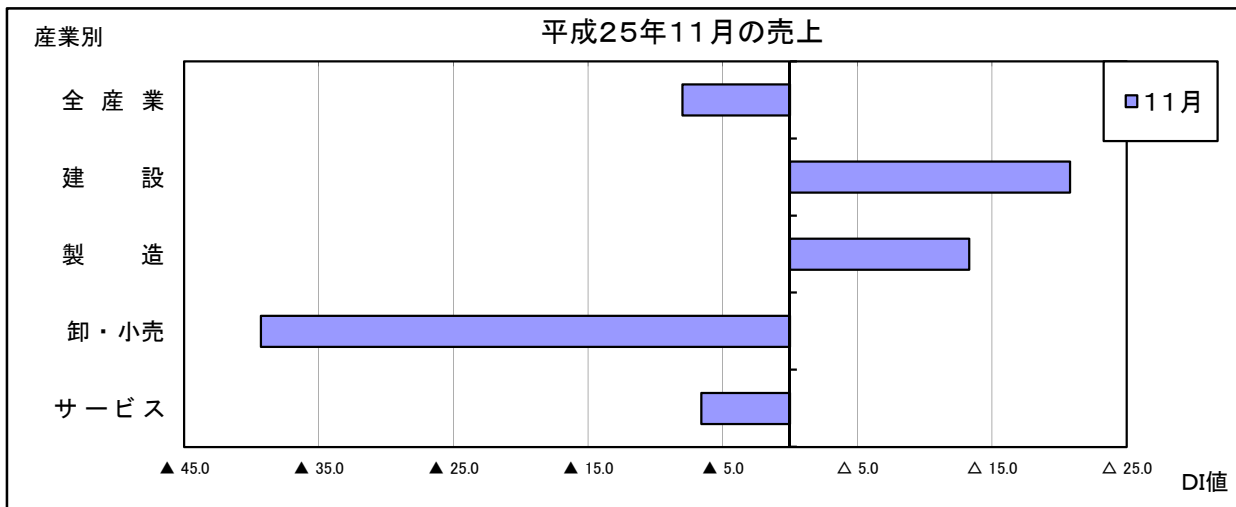
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△13.3(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲6.6(同▲26.6)であり、マイナス幅が20.0ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、建設業△20.8(同△45.8)であり、プラス幅が25.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲39.3(同▲35.4)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.5(前月水準△5.8)となり、プラス幅が1.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△6.6(同△6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲9.0(同▲22.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△33.3(同△37.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲13.3(同△13.3)であり、マイナス幅が26.6ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成25年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲13.4	▲10.7	▲19.3	▲13.9	▲5.8	▲8.0	△4.5(△5.8)
建設	▲18.1	△15.3	▲3.8	△11.5	△45.8	△20.8	△33.3(△37.5)
製造	△17.6	▲5.8	▲11.7	▲16.6	▲6.2	△13.3	△6.6(△6.2)
卸・小売	▲38.2	▲30.5	▲33.3	▲34.3	▲35.4	▲39.3	▲9.0(▲22.5)
サービス	△12.5	▲14.2	▲23.5	▲11.7	▲26.6	▲6.6	▲13.3(△13.3)



【平成25年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.3(前月水準▲17.4)となり、マイナス幅が0.9ポイント拡大した。

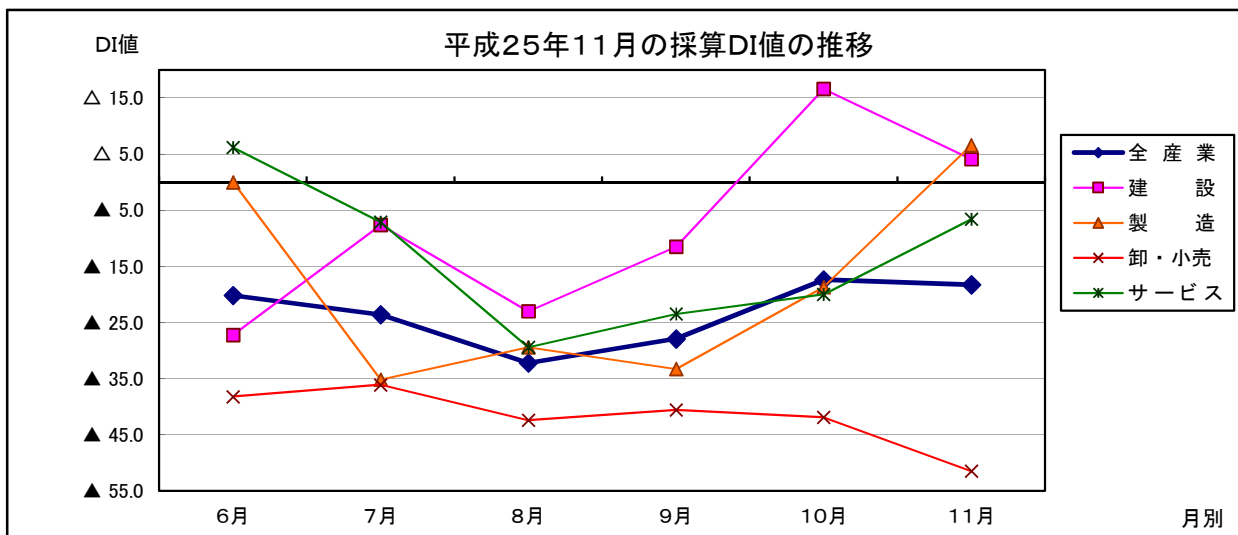
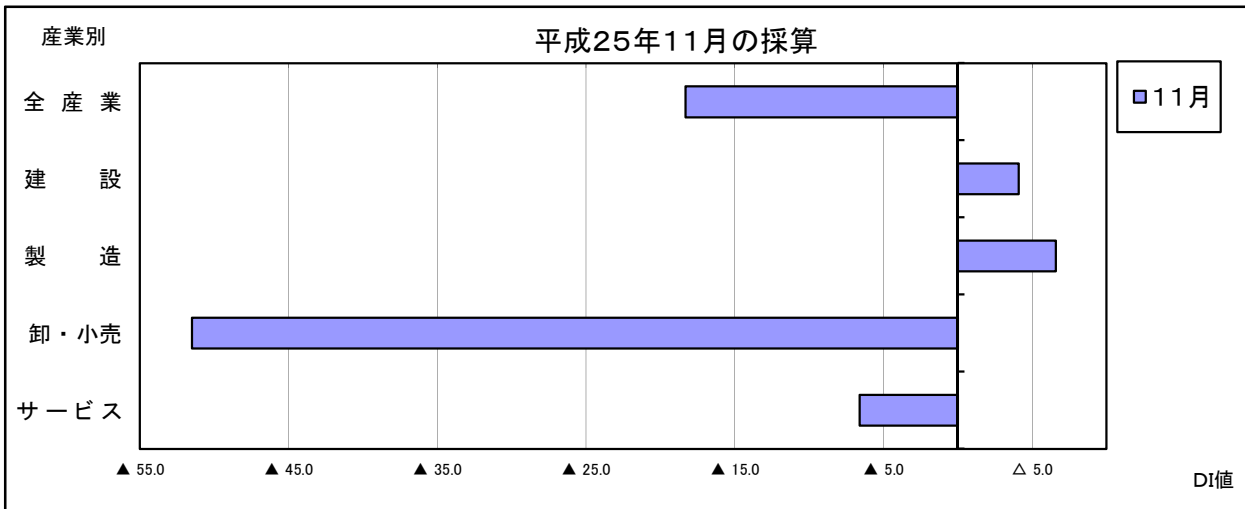
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.6(同▲18.7)であり、プラス幅が25.3ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲6.6(同▲20.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△4.1(同△16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲51.5(同▲41.9)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、全産業では、▲17.2(前月水準▲12.7)となり、マイナス幅が4.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲38.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△8.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲13.3(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲13.3(同▲6.2)である。

平成25年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲20.2	▲23.6	▲32.2	▲27.9	▲17.4	▲18.3	▲17.2(▲12.7)
建設	▲27.2	▲7.6	▲23.0	▲11.5	△16.6	△4.1	±0.0(△8.3)
製造	±0.0	▲35.2	▲29.4	▲33.3	▲18.7	△6.6	▲13.3(▲6.2)
卸・小売	▲38.2	▲36.1	▲42.4	▲40.6	▲41.9	▲51.5	▲33.3(▲38.7)
サービス	△6.2	▲7.1	▲29.4	▲23.5	▲20.0	▲6.6	▲13.3(±0.0)



【平成25年11月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲49.4(前月水準▲50.0)となり、マイナス幅が0.6ポイント縮小した。

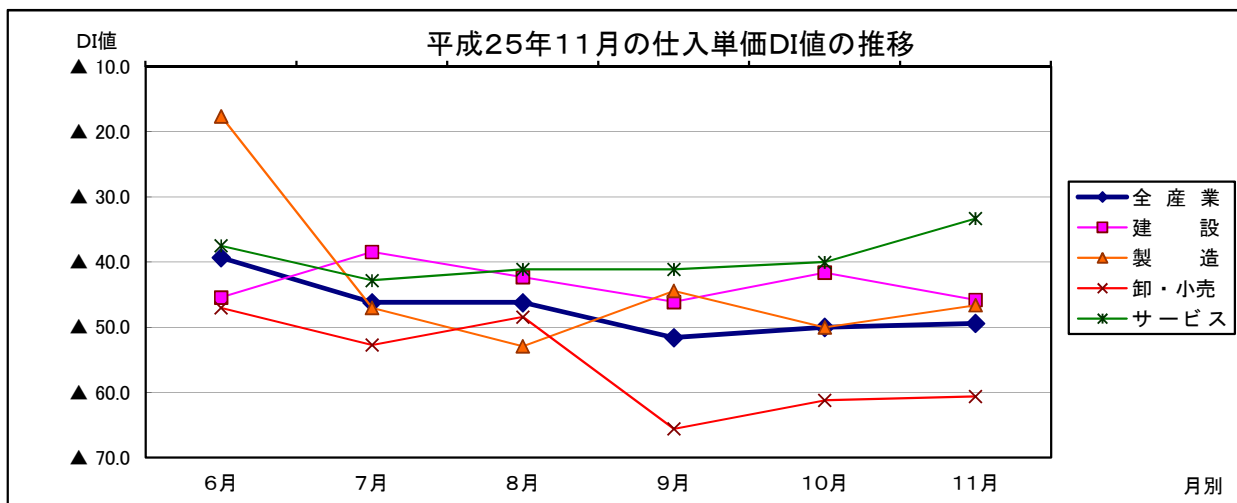
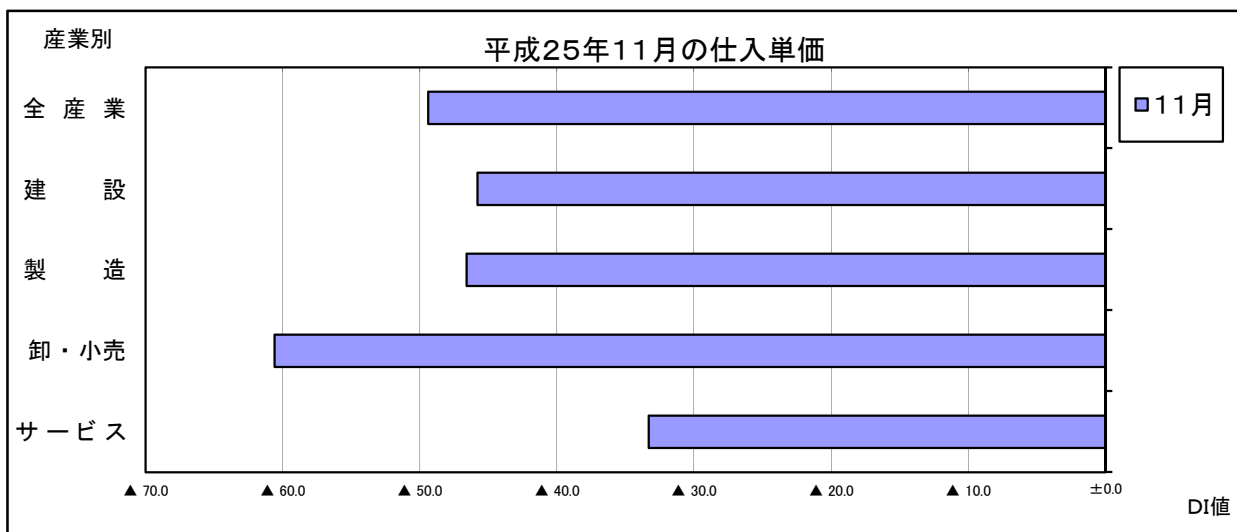
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲40.0)、製造業▲46.6(同▲50.0)、卸小売業▲60.6(同▲61.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲45.8(同▲41.6)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲47.1(前月水準▲39.5)となり、マイナス幅が7.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲26.6(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲60.6(同▲48.3)、製造業▲40.0(同▲31.2)、建設業▲45.8(同▲37.5)である。

平成25年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲39.3	▲46.2	▲46.2	▲51.6	▲50.0	▲49.4	▲47.1(▲39.5)
建設	▲45.4	▲38.4	▲42.3	▲46.1	▲41.6	▲45.8	▲45.8(▲37.5)
製造	▲17.6	▲47.0	▲52.9	▲44.4	▲50.0	▲46.6	▲40.0(▲31.2)
卸・小売	▲47.0	▲52.7	▲48.4	▲65.6	▲61.2	▲60.6	▲60.6(▲48.3)
サービス	▲37.5	▲42.8	▲41.1	▲41.1	▲40.0	▲33.3	▲26.6(▲33.3)



【平成25年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△5.7(前月水準△8.1)となり、プラス幅が2.4ポイント縮小した。

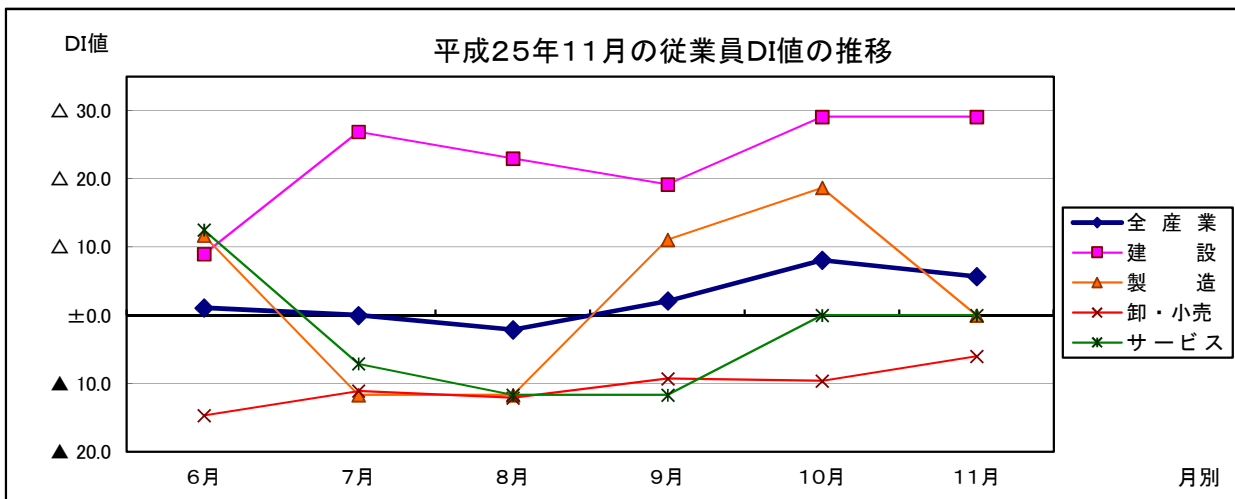
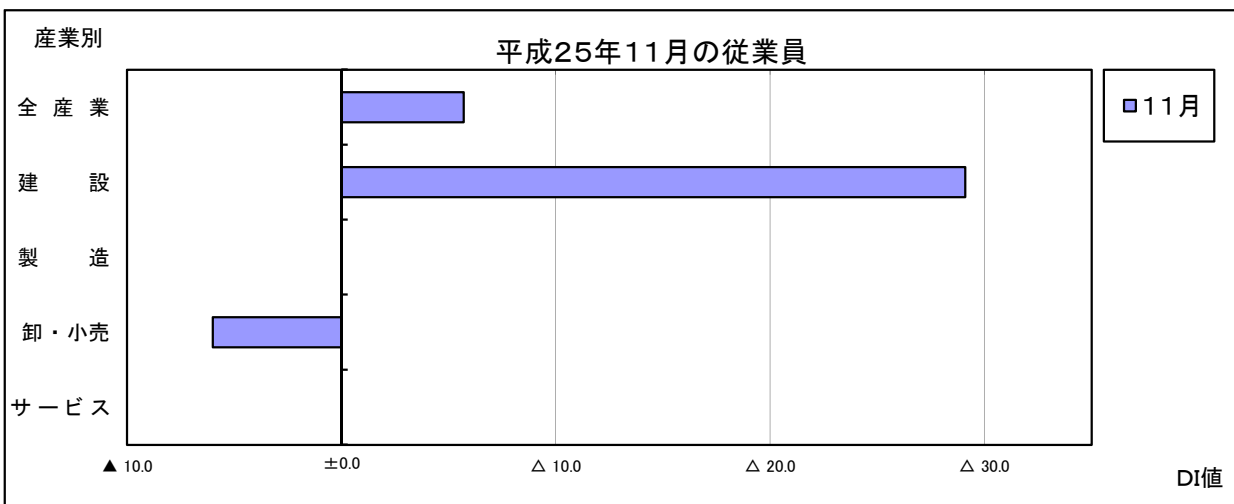
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲6.0(同▲9.6)である。変らない業種は、建設業△29.1(同△29.1)、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△18.7)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△9.1(前月水準△9.3)となり、プラス幅が0.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△37.5(同△33.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲6.0(同▲9.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△6.6)、製造業△6.6(同△12.5)である。

平成25年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△1.1	±0.0	▲2.1	△2.1	△8.1	△5.7	△9.1(△9.3)
建設	△9.0	△26.9	△23.0	△19.2	△29.1	△29.1	△37.5(△33.3)
製造	△11.7	▲11.7	▲11.7	△11.1	△18.7	±0.0	△6.6(△12.5)
卸・小売	▲14.7	▲11.1	▲12.1	▲9.3	▲9.6	▲6.0	▲6.0(▲9.6)
サービス	△12.5	▲7.1	▲11.7	▲11.7	±0.0	±0.0	±0.0(△6.6)



【平成25年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.8(前月水準▲11.6)となり、マイナス幅が4.8ポイント縮小した。

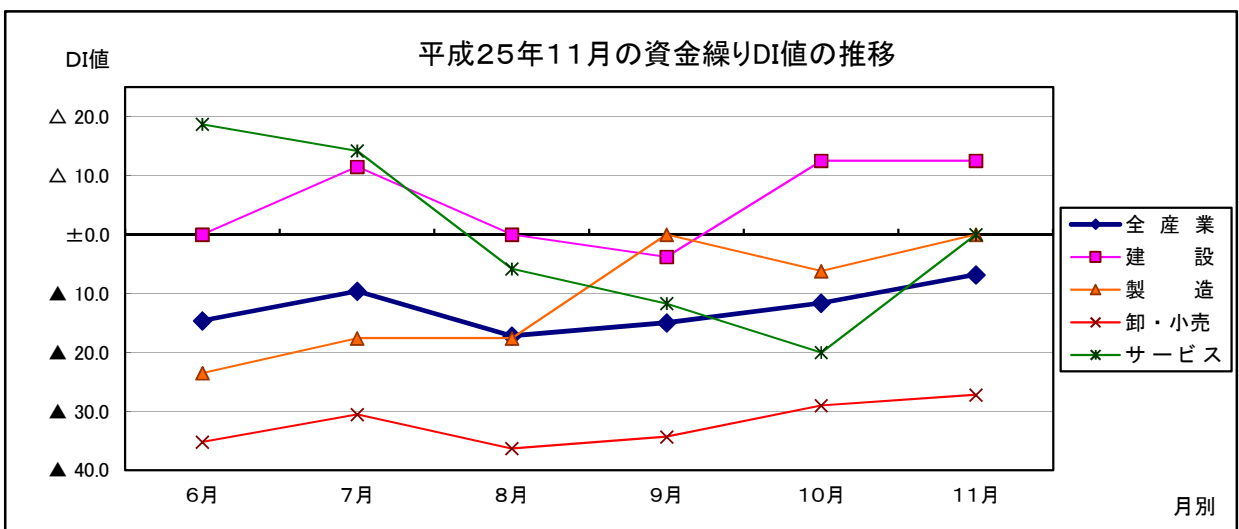
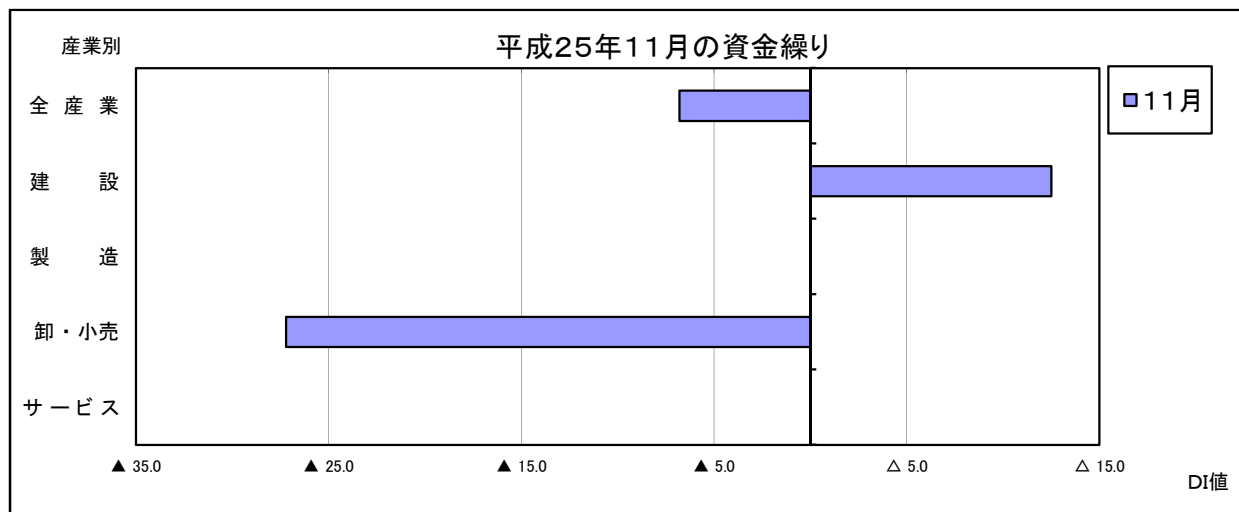
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲20.0)、製造業±0.0(同▲6.2)であり、サービス業はプラス幅が20.0ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲27.2(同▲29.0)である。変わらない業種は、建設業△12.5(同△12.5)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.9(前月水準▲2.3)となり、マイナス幅が12.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同△12.5)、サービス業±0.0(同△6.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲6.6(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲36.3(同▲22.5)である。

平成25年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲14.6	▲9.6	▲17.2	▲15.0	▲11.6	▲6.8	▲14.9(▲2.3)
建設	±0.0	△11.5	±0.0	▲3.8	△12.5	△12.5	±0.0(△12.5)
製造	▲23.5	▲17.6	▲17.6	±0.0	▲6.2	±0.0	▲6.6(△6.2)
卸・小売	▲35.2	▲30.5	▲36.3	▲34.3	▲29.0	▲27.2	▲36.3(▲22.5)
サービス	△18.7	△14.2	▲5.8	▲11.7	▲20.0	±0.0	±0.0(△6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 8.0	△ 4.5	▲ 18.3	▲ 17.2	▲ 49.4	▲ 47.1	△ 5.7	△ 9.1
建設	△ 20.8	△ 33.3	△ 4.1	±0.0	▲ 45.8	▲ 45.8	△ 29.1	△ 37.5
製造	△ 13.3	△ 6.6	△ 6.6	▲ 13.3	▲ 46.6	▲ 40.0	±0.0	△ 6.6
卸・小売	▲ 39.3	▲ 9.0	▲ 51.5	▲ 33.3	▲ 60.6	▲ 60.6	▲ 6.0	▲ 6.0
サービス	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 33.3	▲ 26.6	±0.0	±0.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 14.9	▲ 10.3	▲ 6.8	▲ 14.9
建設	△ 8.3	△ 8.3	△ 12.5	±0.0
製造	△ 6.6	±0.0	±0.0	▲ 6.6
卸・小売	▲ 45.4	▲ 27.2	▲ 27.2	▲ 36.3
サービス	▲ 6.6	▲ 13.3	±0.0	±0.0

【平成25年11月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	相次ぐ台風の影響で、屋根・外壁工事が集中し職人不足が続いている。年内はリフォーム需要は根強いが、年明け1月2月は例年通り暖かくなるのを待っての工事となりそうだが消費税UPもあり、わからない状況です。	天候の影響 人手不足 消費税増税 見通し不透明	一般土木建築工事業
	消費税かけ込み傾向、受注は増加しているが人手不足のため現場進まず。	消費税 かけ込み需要 受注増加 人手不足	管工事業
	先行き、現状とも相変わらず不透明で特筆すべきことはない。仕事はあるのかもしれないが、全体的な業者、職人不足の為、スムーズに進んでいないのでは。これは構造的な問題なので、単に政府が公共事業を発注すれば良いわけではないと思う。	先行き不透明 人手不足 公共事業	石工れんがタイルブロック工事業
	売上は増加しているが材料の値上がりと予算額の低下で利益は少ない。消費税増税のかけ込み需要が表れてきたが、まだ多くない。	売上増加 原材料値上げ 利益減少 消費税増税 かけ込み需要	電気工事業
	どこの業者も人手不足状態が続いている。材料、副資材不足も重なり今迄にない工程の遅れが目立つ。当然、仕上げ業である当社の施工時は竣工迄の期間が全く無い状況となり余計に人手不足となっている。又、例年と比べて施工件数が増えているようではないが、不況に依る低単価に廃業、転職に依る人材不足となり、取引の無いゼネコン会社からの仕事の依頼も多いが受注単価は相変わらず見直しは無く以前の単価のままである。又、この業況に賃上げを要求、ゼネコン受注金額よりも高い施工単価を口に出す下請、作業員もでている。	人手不足 材料不足 受注単価据え置き 賃上げ要求	その他の職別工事業
	工事量が多くなっている。下請け等も不足しており、今年度は忙しい。	工事量増加 人手不足	土木工事業
	一般のお客様からの注文の増加とリフォーム会社からの受注の増加もあり売上が増えました。畳表の入荷も遅れているので、畳業界全体が回転しだしているのかもしれませんが。	受注増加 売上増加 畳業界好調	内装工事業
	職人不足で大変。4月頃までは現況が続くのでは？	人手不足	その他の職別工事業
製造業	年度内に導入することを条件に、案件が重なっており、逼迫しつつある状況である。取引先(外注先)も混んでおり、無理な依頼を請けていただいている。全般的には設備導入の意欲が昨年度より増しているが、4月以降の落ち込みが懸念される。一方、飛び込み営業(売り込み)も少なくなる様子は無く、明暗が二分しているように感じる。	かけ込み需要 設備導入 4月以降を懸念	その他の機械・同部品製造業
	売上高微増、仕入高増を経費減にて吸収し利益前年を確保。	売上微増	酒類製造業
	価値観の多様性によって、業態の在り方を見直さなければならない。しかも、原点からぶれずの多角化でないと今までの業績が活かせないと考える。	価値観の多様性 業態の見直し	印刷業
	序盤は好調に推移。ジャケット、コートなど10月苦戦の重衣料が堅調。ただし中盤以降は好天に恵まれるも動員苦戦。高額品については宝飾・時計・美術工芸品などが消費税増税決定影響により活発が継続。	序盤好調 重衣料堅調 天候の影響 動員苦戦 高額品好調 消費税増税	百貨店
	消費税増税を口にするお客様が出てきました。保存のきく日用雑貨類は価格が安い時にプラス1個多く買っていかれるようです。	消費税増税 日用雑貨類好調	その他の各種商品小売業
	歳暮商戦は、前年と同様で推移。11月中旬から12月に組織顧客対策を入れており、集客増をはかりたいと考えます。	歳暮商戦前年同様 法人顧客対策 集客増	百貨店
	一例で言うと、某デパートで10,000円JUST COATというコートが売り出されているが、これぞデフレ脱却していない証拠か？	デフレ脱却せず	書籍・文房具小売業

【平成25年11月の業種別業界内トピックス】

卸小売業	11月度は11/2(土)のデパートの40周年に合わせ、初旬にイベントを集中的に打ち出したことから、連日多くの集客が図れた。また、2日(土)・3日(日)で実施したキャッシュバックキャンペーンが奏功し、売上高は前年を大きく上回る推移となった。しかし以降気温が安定せず、冷え込みと寒気の緩みを繰り返したことから、中旬から後半に掛けて婦人服を中心に伸び悩んだ。月末に掛けてはクリスマスムードを高め、実需購買に繋がる接客を強化し盛り返していく。	イベントを集中 初旬集客増 キャンペーン 売上増 天候の影響 後半伸び悩み	その他の各種商品小売業
	増税の影響、客足に不安。	消費税増税 客足に不安	その他の各種商品小売業
	原材料の価格の高騰が続いているが、販売価格に転嫁しづらく思うような利益が取れなくなっている。また、ここにきて人手不足の傾向が強くなってきたような感じを受ける。	原材料の高騰 利益低下 人手不足	各種食料品小売業
	ここにきて卵の価格が上昇！年末に向けて更に上がるらしい。その他の原材料も価格が上昇し益々厳しくなると思われる。	卵の価格上昇 原材料の価格上昇	菓子・パン小売業
	本部創立40周年ということで、記念セール等を行った効果もあり、客数・売上共に伸びた。	記念セール効果 客数の伸び 売上の伸び	その他の各種商品小売業
	今月の青果物は、先月の台風上陸や急な冷え込みが原因して、入荷に影響しています。特に、葉物野菜は生育が悪く入荷減少から、高値が長引いています。果実においても同様に入荷が減少し高値取引となっています。今後とも産地情報をもって安定供給していく努力をまいります。	天候の影響 野菜生育悪化 入荷減少 高値取引 果実入荷減少	食料・飲料卸売業
	新型の軽自動車やワゴン車等の登場で代替や新規のお客様が来店され昨年より売上が上がっております。	新型軽自動車 来客増加 売上げ増加	自動車小売
多少ガス器具の増販により前月より赤字幅が減少したが厳しい。季節労働者の利益があがるか不安な年になりそう。今年は仕入れコストの動向を先読みできません。	赤字幅減少 季節労働者 仕入れコストの動向	燃料小売業	
サービス業	11月は開店31周年記念セールの実施等により、前年同等としたが、12月は日曜日より始まり、当日曜日休日の為曜日終わりが良くなく、苦戦しそうです。対策として宴会料理内容の一部見直し、少量高品質へ。あえて単価を下げて、客数増加を考えた。	記念セール 売上げ前年並み 少量高品質	酒場・ビヤホール
	宿泊マーケットは良くWEB販売による客室単価の落ち込みはあるも稼働で上回り前年をクリア。宴会は市長選のためか大型宴会少なく昨年割れとなる。	WEB販売 客室単価落ち込み 稼働率UP 宴会は昨年割れ	ホテル
	11月は個人・法人とも好調。個人は1月は国内、2月は海外が前年を大きくオーバー。法人は第4四半期の動きに期待。	個人旅行好調 法人旅行好調	旅行業
	仕入れ、リフォーム費が共に上がっている。売値は下がっている。よって採算は悪化しています。都内は弱いインフレ現象が発生しているとの事です。	仕入れ費の増加 売値下落 採算悪化 インフレ現象	不動産管理業
	駅周辺で月極駐車場をもっていますが、今時の若いご夫婦は自家用車を持たない方が多く、計画通り満車になりません。	月極駐車場 車不所持傾向	不動産賃貸業
	弊社手持ち物件において住居系賃貸賃料は落ち着いている状態が続いています。立地の需給関係にもよりますがテナントの売上げも落ち着いて、消費税率改定を前に賃料の値下げ要因は現在ありません。短期、個人的には全国各企業の年末賞与良好の結果データで来年の消費マインド上向きのスタートになることに期待。	住居系賃貸賃料不変 消費税 年末賞与 来年に期待	不動産賃貸・管理業
	各企業の設備投資企画が立ち上がらず、厳しさ大です。 厳しい状況変わらず。	厳しい業況	ソフトウェア業

◎人手不足

- ・ 相次ぐ台風の影響で、屋根・外壁工事が集中し職人不足が続いている。 一般土木建築工事業
- ・ 仕事はあるのかもしれないが、全体的な業者、職人不足の為、スムーズに進んでいないのでは。 石工れんがタイルブロック工事業
- ・ どの業者も人手不足状態が続いている。材料、副資材不足も重なり今迄にない工程の遅れが目立つ。 その他の職別工事業
- ・ 工事量が多くなっている。下請け等も不足しており、今年度は忙しい。 土木工事業
- ・ 職人不足で大変。4月頃までは現状が続くのでは？ その他の職別工事業
- ・ ここにきて人手不足の傾向が強くなってきたような感じを受ける。 各種食料品小売業

◎消費税増税

- ・ 消費税かけ込み傾向、受注は増加しているが人手不足のため現場進まず。 管工事業
- ・ 消費税増税のかけ込み需要が表れてきたが、まだ多くない。 電気工事業
- ・ 高額品については宝飾・時計・美術工芸品などが消費税増税決定影響により活発が継続。 百貨店
- ・ 消費税増税を口にするお客様が出て来ました。 その他の各種商品小売業
- ・ 増税の影響、客足に不安。 その他の各種商品小売業
- ・ 立地の需要関係にもよりますがテナントの売上げも落ち着いて、消費税率改定を前に賃料の値下げ要因はありません。 不動産賃貸・管理業

◎売上増加






- ・ 売上は増加しているが材料の値上がりと予算額の低下で利益は少ない。 電気工事業
- ・ 一般のお客様からの注文の増加とリフォーム会社からの受注の増加もあり売上が増えました。 内装工事業
- ・ 初旬に実施したキャッシュバックキャンペーンが奏功し、売上高は前年を大きく上回る推移となった。 その他の各種商品小売業
- ・ 創立記念セール等を行った効果も有り、客数・売上共に伸びた。 その他の各種商品小売業











平成25年11月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.9に対し、「CCI-LOBO」が▲12.8で柏の方がマイナス幅が2.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.0に対し、「CCI-LOBO」が▲1.7で、柏の方がマイナス幅が6.3ポイント大きい。「柏の景気」が良い業種は製造業、建設業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.3に対し、「CCI-LOBO」が▲16.4で、柏のほうがマイナス幅が1.9ポイント大きい。「柏の景気」が良い業種は製造業、サービス業、建設業で、製造業とサービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲49.4に対し、「CCI-LOBO」が▲50.7で、柏の方がマイナス幅が1.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業、製造業で、建設業とサービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△5.7に対し、「CCI-LOBO」が△10.3で、柏の方がプラス幅が4.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業、製造業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.8に対し、「CCI-LOBO」が▲11.5で、柏の方がマイナス幅が4.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業、製造業で、建設業とサービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。











平成25年11月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 14.9	 △ 8.3	 △ 6.6	 ▲ 45.4	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 12.8	 14.6	 ▲ 11.1	 ▲ 26.8	 ▲ 18.8


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 8.0	 △ 20.8	 △ 13.3	 ▲ 39.3	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 1.7	 19.4	 △ 2.8	 ▲ 20.5	 ▲ 4.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 18.3	 △ 4.1	 △ 6.6	 ▲ 51.5	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 16.4	 ▲ 4.9	 ▲ 15.8	 ▲ 25.5	 ▲ 17.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 49.4	 ▲ 45.8	 ▲ 46.6	 ▲ 60.6	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 50.7	 ▲ 63.7	 ▲ 52.1	 ▲ 41.2	 ▲ 50.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 5.7	 △ 29.1	 ±0.0	 ▲ 6.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 △ 10.3	 △ 28.2	 △ 4.7	 △ 7.7	 △ 9.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 6.8	 △ 12.5	 ±0.0	 ▲ 27.2	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.5	 ▲ 4.9	 ▲ 9.2	 ▲ 15.9	 ▲ 13.8

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成25年11月15日～21日

調査対象：全国の417商工会議所が3128業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況
業況DIは、横ばい。回復基調も、仕入価格の転嫁遅れから景況感にばらつき

11月の全産業合計の業況DIは、▲12.8と、前月から▲0.9ポイントのほぼ横ばいで推移。中小企業の景況感は、建設業や自動車関連などの製造業によるけん引に加え、観光関連でも、好調な台湾や東南アジアのほか、中国からの観光客も回復の兆しがみられることから、総じて回復基調が続く。他方で、地域の小売・サービス業で、人件費や電力料金に係るコスト増に加え、長引く仕入価格の上昇・高止まりが足かせとなり業況改善が遅れるなど、景況感にばらつきがあり、一部では回復の動きに鈍さがみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲11.6（今月比+1.2ポイント）と、改善する見込み。消費税引き上げ前の駆け込み需要や冬の賞与増などを背景とする年末商戦の本格化に加え、建設業や自動車をはじめとする製造業によるけん引が続く見通し。一方、仕入価格などのコスト増が続く中、上昇

分の転嫁が難しい中小企業からは、先行きに対して慎重な見方も伺える。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、小売業で悪化、サービス業でほぼ横ばい、その他の2業種で改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「受注は好調なもの、鉄や生コンなどの仕入価格が5〜10%上昇しており、収益改善が遅れている」（一般工事業、「公共工事は増加傾向。他方で、住宅投資に一服感がみられた」（土木工事業）、「太陽光発電などの案件はあるが、人手不足のため対応できない」（設備工事業）

【製造業】「バターなど乳製品の価格が上昇。包装資材も高止まりしているが、転嫁は難しい」（パン製造業）、「取引先の業種によって受注量にばらつきがあるものの、発電プラント向けのタービン関連は好調に推移」（電気機械器具製造業）、「鋼材の値上げがあったものの、軽自動

車向けの受注が増加しており、業績改善が続く」（自動車部品製造業）

【卸売業】「取引先からの値下げ要求が相次いでいる。採算は合わないが、受注を確保するため、対応せざるを得ない」（食料品卸売業）、「原木の価格が高止まりしているものの、住宅向けなどの引合いは好調」（建築資材卸売業）、「住宅や自動車関連の受注が増加。一層の受注増に向けて、自社製品の開発を検討している」（ねじ・工具卸売業）

【小売業】「年末商戦が始まり、高価格帯の商品を強化したことが奏功し、売上が伸びている」（百貨店）、「百貨店内に店舗があるため、食材偽装問題によるイメージ低下など、売上への影響を懸念」（茶類小売業）、「近隣店舗との競争が激化する中、電力料金の上昇や人件費の増加により、経営は厳しい状況」（飲食料品販売店）

【サービス業】「富士山周辺を巡るツアー客が増加しており、売上も好調に推移」（飲食店）、「宿泊客が増加し、人手不足の状況。アルバ

イト確保のため、時給を見直さざるを得ない」（旅館業）、「経営合理化のため営業車を削減する取引先が増えており、受注が減少」（自動車整備業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲17.3	0.8	▲19.6	▲29.3	▲26.4	▲13.5
7月	▲14.1	6	▲15.8	▲20.7	▲22.8	▲14.4
8月	▲15.7	3.9	▲20.7	▲26.8	▲25.8	▲10.2
9月	▲15.1	4.1	▲16.2	▲20.7	▲25.1	▲14.7
10月	▲11.9	18.2	▲13.7	▲17.5	▲22.8	▲18.4
11月	▲12.8	14.6	▲11.1	▲16.2	▲26.8	▲18.8
見通し	▲11.6	3.3	▲8.4	▲13.3	▲17.0	▲19.3

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI